

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627
自己評価作成日	令和元年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年12月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>鹿児島市の街中にあり、最寄りの鹿児島市市電の笹貫電停まで徒歩約3分。最寄りのバス停まで徒歩約5分の、交通状況が便利な立地にあり、お店や郵便局、銀行、レストラン等の地域資源に恵まれたグループホームです。「あなたが今できることを大切にして、いつまでも美味しくお食事ができ、笑顔の絶える事のないようなグループホームに。」との理念を大切にして、実践できるように取り組んでいます。利用者様の今できることを大切にしなが、心に寄り添い、ご一緒させていただける時間に感謝しながら、安心して過ごすことができる暮らしの支援を心がけています。町内会に加入して、地域の催し事への参加や、同じ町内会にある高齢者施設と共同で開催している交流会に参加していただいたり、町内会活動や地域交流を楽しんでいただけています。定期的に外出を楽しんだり、踊りや歌のボランティア様にお越しいただいての慰問交流も行っています。野菜を中心にしたお食事内容で、利用者様から好評いただいております。「いつまでも美味しく食事をしていただける」との理念に基づき、口腔ケアの大切さをケアの実践として取り組んでおります。ご利用いただいている方々が、安心して暮らせる場所として、いつまでも暮らしたいと思っただけの場所として。一番心地よい居場所として。そのようにご利用者様からもご家族様からも思っただけのような、グループホームとなれるように日々取り組んでいる事業所です。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、地域内にある4つの高齢者施設合同の地域交流会を開催し当番制で役割分担を決めてパンフレットから景品までを準備し、多くの参加者を得て、小学生の踊りやそれぞれの職員からも出し物があり、利用者も景品作りに参加して楽しく活発な地域交流を行っている。</li> <li>・グループホームを知ってもらい一緒に過ごす目的で、外部に声かけし、事業所内で認知症カフェを開き、小学生の参加もあり、地域交流を工夫している。</li> <li>・事業所内は家庭的な雰囲気の中で利用者の笑顔も多く自由に生活ができる環境である。</li> <li>・職員の口腔管理勉強会を歯科医師や歯科衛生士を講師に招き、スキルアップに繋げている。</li> <li>・管理者や職員同士のチームワークもよく、それぞれが自己研鑽に努め、働きやすい環境づくりを行っている。</li> </ul>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に、理念の唱和を行うことで、管理者と職員は理念の根本にして、日々のケアの実践につなげられている。また定期的に職員ミーティングにて理念の振り返りや見直しを話し合っている。	理念は玄関・事務所・地域交流室に掲示し、毎朝、朝礼時に全員で理念を唱和し意識づけしている。ミーティングや個別にケアの振り返りを行い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、地域主催の行事(夏祭り・運動会・清掃活動・防犯パトロール等々)に日常的に参加させていただき、利用者が地域とつながり、事業所自体も地域の一員として交流できている。町内会に在籍する当事業所をはじめとする、高齢者施設が中心となり、毎年9月に「小松原1丁目交流会」を開催して地域の方々と交流を図れている。	町内会に加入し総会に出席して事業所の取り組みを紹介している。毎月の防犯パトロールや夏祭りに参加している。事業所を含む4団体の高齢者施設が主体となって、地域交流会で小学生や多くの地域住民が参加し楽しんでる。ホーム行事にはギターやアコーディオン演奏などのボランティアの受け入れや認知症カフェを開き地域貢献につながっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	定期的な運営推進会議を中心に、認知症の人の理解や支援方法を発信している。毎年9月の地域交流会に地域住民の方にも参加いただき、認知症の人の理解支援方法を発信している。また当事業所での行事に地域住民の方にも足を運んでいただき、交流していただくことで認知症理解と支援方法を発信している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、直近2ヶ月間の運営状況のご報告を行う中で、ご意見やご助言をいただき、話し合いできる機会ができることで、当事業所としてのサービス向上に活かすことができている。</p>	<p>地域包括支援センター職員の参加を得て、定期的に会議を開催し、消防避難訓練と同日開催の時もある。事業所の運営状況と外部評価の結果・ヒヤリハット・事故報告などを行い、訪問看護ステーションの役割を映像で実施する等、意見をケアサービスに活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>担当していただいている、福祉事務所担当者や介護保険課担当者と連携を図ることができており、運営推進会議には、担当の地域包括支援センター職員に毎回出席をしていただいております。当事業所の運営状況やケアサービスについてお伝えしながら、適宜ご助言やご意見を頂戴し、各担当者との協力関係を築けるよう努めている。</p>	<p>市担当者とは事故報告や書類申請時に、福祉担当者とは利用者と一緒に出向き医療機関受診の相談をする等、日頃から協力関係にある。介護相談員の受け入れや保護担当職員の訪問には情報を共有し、市主催の研修会に参加し、伝達講習している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月の職員ミーティングにて、身体拘束廃止マニュアルを基に身体拘束廃止について話し合う機会を設け、拘束に該当していないか、拘束の恐れはないか等々の話し合いを行っている。身体拘束の禁止対象となる具体的な行為もスタッフルームに掲示したり職員ミーティングにて全員で再確認する機会を作り、声かけも含めた身体拘束廃止に向けて、定期的に勉強会も開催し、身体拘束をしないケアに取り組むよう努めている。</p>	<p>毎月のミーティングでマニュアルを基に勉強会を実施し、意見交換しながら、再確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。人感センサー使用中は話し合いを定期的に設けている。日中の玄関施錠はせず見守り支援をしている。外に出ようとされる場合は思いを聞き安全対策として職員と一緒に行動している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月の職員ミーティングにて、高齢者虐待について話し合う機会を設け、虐待の具体的内容を再確認する上で学ぶ機会を作っている。また虐待について、直近1ヶ月間でそのような事例が行われていないかを確認できるような話し合う機会を、職員ミーティングにて行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員ミーティングにて、成年後見制度等について定期的に学ぶ機会をもち、実際に成年後見制度を利用されている利用者がある為、時折に学び今後必要な対象者がいらしたら活用できるような支援を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	懇切丁寧を心がけ、利用者及びご家族様のニーズや不安なことを抽出できるように努めている。改定等の際も懇切丁寧を心がけて、十分なお説明の上、書面でもわかりやすい形で、理解や納得を吐かれている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からは随時ご要望やご意見を傾聴する機会作りに努め、ご家族様からは面会時やお電話等にてご要望やご相談を気兼ねなく申しつけただけよう努めている。また何でも気軽に話せる雰囲気や環境作りに管理者や職員が努め、よいコミュニケーションが図れている。ご意見箱を設置したり、運営推進会議や家族懇談会にて、ご意見やご要望等をうかがう機会を作っている。	利用者からは日頃のコミュニケーションの中で積極的に声かけし思いを把握している。家族からは面会時や家族懇談会、毎月笹貫だよりを郵送し、意見や要望を言える機会を設けている。管理者は積極的に声かけし傾聴する姿勢で対応している。便りの活字を大きくする等、改善し運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は毎月の職員ミーティング時や個別的に運営に関する意見や提案を職員より聞く機会をもち、なるべく管理者から働きかけて職員に運営に関する事等の意見を尋ね聞く機会をもっている。代表者は管理者会議時に管理者より運営上の意見を聞く機会をもち、それを反映させられるよう努めている。</p>	<p>管理者は、毎月のミーティングや日々のケアの中で積極的に職員と話し合い、意見や提案を聞いている。常にアンテナを張って表情の変化があると声かけし、必要時は個人面談もしている。代表者は、管理者会議で職員の意見や提案を運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、管理者や個々の職員の状況を理解把握し、福利厚生をはじめ各自が向上心をもって働くことができるよう、職場環境の整備等に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は月々の管理者会議時や、随時法人内外で行われる研修等を案内し、管理者が職員に案内を行い、個々の職員の現在の状況に合わせた研修等に参加してトレーニングをできるように取り組み努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月々の管理者会議にて、他事業所の管理者同士が交流する機会を設けている。また法人内の研修で、他事業所の職員と意見交換する機会等を設けている。福利厚生の一環として「Sカフェ」という企画を行い、喫茶店を利用しての参加職員が相互に交流できる良い機会となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様の現在の困りごとや不安なこと、要望等を随時傾聴して、本人様の安心できる環境の確保や関係づくりに職員全員で取り組んでいる。またご家族様にも協力をいただいで、本人様のニーズや不安なことを教えていただけるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族様の困りごとや不安なこと、ご要望等を気兼ねなく教えていただけるよう、管理者をはじめ、全職員が取り組み努めて、気軽に教えていただける関係性作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始段階で、その時々生まれる必要としている支援は何かを見極め、例えば訪問マッサージなどの他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人様にとって、職員は暮らしを共にする者同士、家族のような関係性で、本人様と一緒に過ごせられるような関係性を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族の関係性を理解把握し、本人様とご家族様の絆の大切にしながら、こまめに状況をお伝えしたり、外出行事等に一緒に参加していただいで、楽しい時を一緒に過ごしていただく機会を提供している。家族様も一緒に本人を支援できるような関係性を構築できている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様にとって、大切な人や馴染みある人との交流や関係が途切れないように、随時面会や外出時に支援できるように努めている。大切に馴染みある場所については、ご家族様に協力をいただいで支援に努めている。	家族や友人の面会が多く、お茶を出して、居室でゆっくり過ごしてもらったり、手紙や電話の取り次ぎ支援もしている。医療機関受診時、馴染みの場所の前を通ったり家族の協力で理美容院や墓参り・お盆・正月には外泊するなど、関係性が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、良い関係性を継続できるように、食事やお茶の時間、家事参加やレク活動を通して、トラブルなくお互い支えあい、良い関係を続けられるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでの関係性を大切に、近況をお聞きしたり、必要に応じた支援ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方、ご希望や意向を把握できるよう努め、伝えることが困難な利用者様には、ご家族様よりお聞きできるように努めている。どちらも困難なときは本人様本位に検討できるように努めている。	日常のコミュニケーションの中で「息子が来ない」などの言動から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情の変化から推測したり、家族に聴いたり、居室の担当者やモニタリングの気づきなどをカンファレンスで意見交換したのを分析し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みだった暮らし方、生きてきた環境等を、ホームで過ごす中での経過の把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や心身状況を把握できるシートを活用して、今できていることや、できなくなっていること、健康面を中心に心身状況を把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月や随時開催するケアカンファレンスにて、現在の課題やケアの在り方について、本人や家族様からうかがった内容を、本人様の介護計画に反映させて作成している。様々なアイデアを職員をはじめ関係者から教えていただき、現状に即した介護計画となれるよう努めている。	本人や家族からの希望や要望、毎月のケアカンファレンスや主治医・関係者の意見をもとに担当者会議を実施し、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎、見直しは6ヶ月毎に実施し、必要時はその都度見直ししている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護ケース記録や日誌、事業所独自のバイタルチェック表・個別記録をつけて、職員間での情報共有をしながら、ケアの実践や定期的な介護計画の見直しに活かされるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問歯科、訪問マッサージや地域社会資源を、本人様や家族様のニーズに対応しながら、柔軟に支援やサービス提供ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の行事参加や、近隣のお店での買い物、手続き等を一人一人に合わせて、暮らしを安心して楽しむことができるような支援の取り組みに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人様及び家族様が希望される、かかりつけ医を教えていただき、希望に沿ったかかりつけ医での医療を受けていただけるよう支援している。またかかりつけ医以外にも適切な医療を受けていただけるよう支援している。	希望するかかりつけ医と連携しながら関係性を築き職員や家族同伴で定期的に受診し健康管理している。24時間のオンコール体制で時に救急医療機関への搬送や薬剤師による配達で諸注意の指導を受ける等、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同社内の訪問看護師に、訪問時や電話にて、本人様の心身状況の相談を受けてもらっている。また事業所内の准看護師資格の職員にも相談し、各ご利用様が適切な医療や看護が受けられるような支援に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の医療機関の関係者とこまめに連携を図り、面会にて直接状況を確認しながら、なるべく早期退院ができるように家族様にも協力をいただきながら、医療機関関係者との関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化・看取りの指針を整備し、段階に応じて本人様や家族様と終末期についての相談や話し合う機会を作り、事業所として現在できることを説明して、終末期になっても安心していただけるような支援方法や方針を提示して取り組めるようにしている。</p>	<p>契約時に重度化や看取りケアについての指針を説明し、同意書を得ている。状態変化時はその都度指針を説明し意志を確認している。主治医からの説明があり、本人や家族と方向性を確認、共有しながら、状態に応じて事業所でできる支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防避難訓練の際に消防署員に急変対応を指導してもらったり、訪問看護師にそのような場合の対応について指導を受けて、実践力につながるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月々の職員ミーティングで、実際の非常災害ケースを検証し、災害別にどのような避難対応をするかを話し合い統一した取り組みを話し合っている。運営推進会議で非常災害時の避難救助の相談依頼をし、そのような時には地域住民との連携が図れるように努めている段階である。</p>	<p>年2回、消防署立会いで昼夜間想定避難訓練を実施している。地域住民の協力で事業所のスペースを避難場所としている。運営推進会議参加者も一緒に避難訓練を実施し助言を貰うなど協力体制作りを努めている。非常用として、水・米・缶詰・ラーメン・お菓子などの食品と懐中電灯・カセットコンロ・オムツなどの備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の利用者様は、これまで生きてこられた過程で、様々な出来事や苦勞をされてきた方々であることを、職員は理解して、お一人おひとりを尊び、誇りやプライバシーを大切にしながら、配慮ある言葉かけや対応に努めている。	研修会に参加して事業所で全員に伝達したり、マニュアルに基づき勉強会を実施し、接遇や個人情報への配慮、利用者の時代背景を知り、一人ひとりを尊重した言葉遣いや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の発する言葉や表情等で、本人様の思いや希望を教えていただけるよう努め、それが自己決定につながるよう、できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日を、本人様のペースや希望に沿って過ごしていただけるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人様の好みを教えていただき、家族様の協力も得ながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事や食事が楽しみの一つとして、大きな位置を占めていることを理解し、一人ひとりに好みや今現在の力を活かして、野菜の調理下準備や食後の食器洗いやトレー拭きを、利用者様と本人様が一緒に取り組める環境整備に努めている。	栄養士の職員が献立作成し食べることが楽しみとなるよう工夫している。もやしの根取りや根菜類を切るなどの下準備から職員と一緒に関わり、それぞれの食形態で楽しく摂取し、利用者様は個々に応じトレーや台拭き・片付けをしている。行事食や忘年会・おせち料理、年3回の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様に合った食事量や水分摂取量に配慮し、記録をつけながら状態や力に応じた支援をしている。食事献立は栄養士資格のある職員が考案しており、食材バランスよく食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は一人ひとりの口腔状態に合わせての口腔ケアに取り組んでいる。協力歯科医院による歯科診療(通院・往診)にて、口腔内管理をしていただいている。職員は口腔ケアの大切さを理解しケアの実践をしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン／排泄内容等のシートを活用し、トイレでの排泄ができるように努めている。おむつ使用減や、おむつを中止して下着使用を行っている方もいる。	排泄パターンを把握し、それぞれの排泄物容量に応じたパット類を使用し、トイレ誘導し排泄支援している。日々、回数を把握し、水分摂取や牛乳飲用、繊維食品摂取による便秘や感染防止にも努めている。リハビリパンツから綿パンツの変更に繋がった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳の乳製品食の提供や食事献立に繊維を多く含む野菜を取り入れ、また便秘に陥らないような家事参加しながらの生活リハビリに取り組んでいただき、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に2回の入浴をしていただき、なるべく本人様のタイミングや希望する内容での入浴支援に努めている。	脱衣所と浴室の温度差を無くし週2回の入浴支援を時間帯の希望に応じて支援している。シャワー浴と足湯も支援している。浴室には「のれん」をかけ、ゆずや森林浴などの入浴剤で楽しめるよう工夫している。希望に応じて同性介助をしている。入浴拒否時は無理強いせず、翌日に支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活習慣に合わせて、短い時間での昼寝をしていただいたり、入浴後に休息していただいたり、就寝数時間前のホットミルクの提供をすること、適度な室温調整をし、気持ちよく眠れる支援に努めている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量を正しく理解しており、様々な方法での服薬支援や状態変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の家事参加時や、暮らしの中で、それぞれの力量等に合わせた役割を担っていただくことで、過ごさせている。また定期的な楽しんでいただける外出支援(大勢/個別)を行うことで、気分転換となり暮らしを楽しめるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その日の希望で、近隣のお店に買い物に出かけたり、近隣の公園まで散歩に出かけられる支援をしている。定期的な外出をすることで非日常的な雰囲気や環境を楽しんでいただいている。馴染みの場所等には家族様の協力もいただきながら外出できるよう支援に努めている。</p>	<p>日常的に希望に応じて、買い物や近隣の公園まで散歩に行っている。年間計画で都市農業センターに花見に弁当持参で出かけたり、外食や物産館、地域交流のイベントに参加している。家族の協力で墓参りや外出・外泊に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことや使える大切さを理解し、その人の力に応じて、少額のお金を所持していただいたり、また外出時に使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族様や大切な人からの電話や手紙(ハガキ等)のやり取りができるように支援している。中には携帯電話を使用している方もおり、随時やり取りができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間やスペースでは、不快感なく過ごしていただけるように、努めている。季節や気候に合わせての空調調節や安心して過ごせるよう配慮している。季節ごとの飾り作りや飾りを一緒に取り組み、居心地よく過ごせるような工夫や配慮をしている。	共用空間はアロマエキスで空気殺菌や消臭目的で定期的に噴霧している。採光もよく温度計や加湿器があり、空調管理がされ過ごしやすい環境となっている。季節の飾り物や外出時の写真を掲示し、テレビやソファ・仏壇などがあり、生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、ソファを設置してゆっくりとくつろいでいただいたり、気の合う利用者同士が思い思いに過ごせられるような配慮や工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人様が安心して過ごせるように、家族様の協力もいただきながらの居室作りに努めている。馴染みある物を極力持ち込んで使用していただけるよう、家族様に相談しながら、居心地よい工夫を凝らしての居室作りに配慮している。	居室入口の表札の上に避難時に取り外しカードが掛けられている。居室はベット・タンス・洗面台・エアコンを設置し、寝具は使い慣れたものが持ち込まれている。希望に応じてベットも持ち込まれ枕元の棚には小説や辞典もある。家族の思いで毎年誕生日に千羽鶴を持参している。職員で誕生カードを作成し、家族と相談して本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下を中心に、必要な場所に手すりを設置し、安全に行動できるよう工夫をしている。居室には、個別の表札を設置したり、トイレには「お便所」の目印、浴室前には「湯」と書いた暖簾を下げている。なるべくご自分でできて、わかり自立した暮らしが送れるように努めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない